

● トラック1 「プロローグ」

● 背景..山中（日中）

（主人公、山中を歩いている）

◇ S E .. 土を踏む足音

（数秒ほど歩き、古民家を発見すると足を止める）
（数秒足を止めたのちに再び歩き始める）

◇ S E .. 土を踏む足音

（玄関前で足音停止）

◇ S E .. ドアをノック

（ドアの奥から近づいてくる足音）

◇ S E .. ススツツというような足音（ダナ）

◇ S E .. 引き戸を開ける音

◆正面

ダナ 「あら？ ふふふ。わかりますよ？」

道に迷われたのですね？ お疲れでしょう。どうぞ、部屋の中に上がつてください。」

（主人公「い、いいんですか？」）

ダナ 「はい、もちろんです。ここは疲れた方々を癒すための施設です。

なので遠慮なく上がってください。」

◇ S E .. 三和土を踏むような足音数歩

◇ S E .. 引き戸を閉める音

●背景..玄関（日中）

ダナ 「靴を脱いでください。そういう作法を取り入れた屋敷なので。」

◇S E ..靴を脱ぐ

ダナ 「、ちらへ。」

◇S E ..スススツというような足音（ダナ）

◇S E ..足音（主人公）

●背景..和室（日中）

■演技..背中を向けた状態

ダナ 「どうでしよう?」のお部屋。」

（足音停止）

ダナ 「自然な空気を感じられるよう、

畠という異国の文化を取り入れた特注のお部屋です……♪」

（主人公「、」はいittai……）

ダナ 「こちらですか?ここは癒し屋という母屋です。

私——ハーフエルフのダナと申します。

ここはエルフが営む癒しを提供する場所なんです。

普段はお金を頂戴して、ここで癒しを売る商売をしているんです。」

（主人公「、」はいittai……）

ダナ 「ふふ。こんなところ……たしかにそうですね。

ですが、ここは魔力同士の反発を受けることがなく、

新鮮で気持ちいい魔力を放出できるんです。

癒しを差し上げるのにぴったりでしょう?」

（主人公「どうやって癒すの?」）

ダナ 「興味がおありのようだ……♪」

◇S E・足音数歩（ダナ）

◆右極近

ダナ 「こうして……耳元から気持ちよさを提供するんです……♥」

■演技・軽い吐息

はあ……。

ダナ 「どうですか？人生において、耳元で囁かれるなんて早々ありません。
でも、我々が思つてるよりも耳って気持ちよく、
性感帯なんですよ……♪」

◆左極近

ダナ 「その良さを……今日は特別に、サービスしちやいましょうか……♥」

◇S E・右耳をそっと撫でる

ダナ 「どうしますか？どこかへ急ぎの用事はありますか？
道に迷つたとお見受けしますが……、
よろしかつたら、あなたの人生の短い時間だけでも、
私の提供する癒しに、費やしていただけますか……？」

（主人公「お、お願いします」）

ダナ 「はい……♪

それでは、癒させていただきますね……♥
身も心も、疲れを忘れていくくださいね♥」

● トラック2 「水の音色」とひざまくら「

● 背景 .. 和室（日中）

（ トラック1 の 続き）

◆ 左極近

ダナ 「それでは……、」

◇ S E .. 座る音

◆正面下

ダナ 「おいで？私の膝に。」

（主人公、戸惑う）

ダナ 「ふふふ。恥ずかしい？

誰も見てないよ。

ここにはふたりだけ。

私とあなた以外……誰もいないの……♥」

（主人公、ひざまくらへ）

◇ S E .. 座る

◇ S E .. 膝に頭を乗せる

◆正面近い

ダナ 「ようこそ♥

エルフの癒しは……物理的な癒やしだけじゃないんですよ
思う存分……スッキリしてくださいね。」

（主人公 「物理的？」）

ダナ 「はい。たとえば、「んな」ともできるんです。」

◇ S E .. 指を鳴らす

(指を鳴らすと川のせせらぎの音が聞こえる)

◇ S E .. 川のせせらぎ (指定箇所まで)

(3~5秒ほど S E を聞き入る)

ダナ 「聞こえできませんか? 水の流れる……心安らぐ音が。」

(主人公 「ど」から音が……?)

ダナ 「外に川は流れでません。いま、魔法をかけたんです。この部屋に。音だけが聞こえて……物質は存在しない。ステキな癒しじですね♥」

◇ S E .. 頭を撫でる音

ダナ 「この音を聞きながら……幸せになつてくださいね。お疲れでしょう? 目を瞑つて、耳だけに集中するんです。」

(数秒、 S E を聞き入る)

ダナ 「……では、吐息を吐いてみましようか?

心から悪いものを吐き出すのをイメージして……深呼吸です。
いきますよ?」

ダナ 「新鮮な空気を吸つて……?

……邪氣を吐いて……。

ダナ 「吸つて……。

……吐いて。」

ダナ 「吸つて……。

……吐いて。」

ダナ 「小さい頃、若い頃、深呼吸をしろと言わると億劫でしたよね。
でも、疲れた時に悪いものを吐き出すイメージで吐いてみれば……、
心の中の膿が、外に出ていく気分になりますね……♪」

(頭を撫でる音停止)

ダナ 「では、気分がよくなつたと信じて、
お耳を綺麗にしましようか……♪
お耳、私へ向けてください。」

◇ S E : 寝返り

◆ 右近い

ダナ 「ありがとうございます……♪」

(ダナ、耳かき棒を手に取る)

◇ S E : 耳かき

ダナ 「では、このエルフの里の花で作られた癒しの棒で、
お耳もスッキリしましよう……♥」

◇ S E : 耳かき

ダナ 「ん、う、ん、ん、ん……。
いつも、お耳は綺麗にしてますか……？」

ダナ 「ん、う、ん、ん、ん……。
ふう、ん、ん、ん……。

もし、お耳を掃除するのが面倒でしたら……、
私のところに来てくださいね……♥」

(耳かきのみ5秒)

ダナ 「ん…………ん…………。」

(耳かき停止)

◆右極近

■演技：息吹き

ダナ 「ふう～～～……。」

◆右近い

ダナ 「ふふ…………♪」

◇S E：耳かき

(耳かきのみ5秒)

ダナ 「水の音を聞きながら…………どうですか？
目を閉じながら聞くと…………、
ステキな情景が浮かびませんか…………？」

(耳かきのみ5秒)

ダナ 「んう…………ん。ふふ。

川のせせらぎ以外でも…………楽しめますよ？」

ダナ 「ん…………ふう…………ん。
やつてみます？ほかの音。」

(耳かき停止)

ダナ 「では。」

◇S E：指を鳴らす

(川のせせらぎ停止)

◇ S E : 静かな雨音

ダナ 「さ、反対のお耳へ……♪」

◇ S E : 寝返り

◆左近い

ダナ 「ありがとう♪」まわす……♪」

■演技：吐息

ダナ 「はああああ……♥」

ダナ 「感謝を込めて、お耳を気持ちよくしますね。」

◇ S E : 耳かき

(耳かきのみ5秒)

ダナ 「どうですか……？」

「こっちのお耳も……お疲れみたいですよ？」

雨音に耳を傾けながら……癒されてくださいね……♥」

(耳かきのみ7秒)

ダナ 「そりゃ……今日はどちらへ向かう予定だったんですか？」

(耳かきのみ5秒)

ダナ 「なるほどお。ふふふ。

私としては……迷子になつていただけたのは、
むしろ光栄ですね……♪」

ダナ 「んう……んく……。

ン……」

(耳かきのみ7秒)

ダナ「ふふ。

気持ちよさそう……♪」

(耳かきのみ5秒)

ダナ「ここの次……なにがあると思いますか？」

癒し屋は……耳かきだけじゃありませんよ?」

(耳かきのみ5秒)

ダナ「ここ、女性も男性も関係なくご利用いただけるんですが……、」

(耳かき停止)

◆左極近

ダナ「男性には、専用の癒しを提供する流れになつてるんですけど♥」

■演技：息を吹く

ダナ「ふうーー……。」

ダナ「いかがでしたか？」

それじやあもう一度、私の方を向いてくださいね?」

◇S E：寝返り

◆正面近い

ダナ「ふふふ。

どうでしたか?」

(雨音がゆっくりと静かになる)

◇S E：両耳を指で撫でる

ダナ 「あなたに必要なのは……、
耳かきだけではないみたいですね。」

ダナ 「なので……この次の癒しで、

心の中から悪い空気をしっかりと吐き出させてみせます♪」

(耳撫で停止)

◆右極近

ダナ 「では、ここから先はオトナの世界
はじめましょうか……♥」

● トラック3 「まずはお手々で幸せに」

● 背景..和室（日中）

（トラック2の続き）
(ひざまくらした状態)

◆右極近

ダナ「それでは……、」

◆正面近い

ダナ「いまから私達は恋人です♪
ですから、なにをしようといかがわしい」とではないんです。
恋人を癒すのは、当然の行いでしょ？」

◆正面極近

ダナ「恋人ですから……、」

（ダナ、キスをする）

ダナ「ちゅ。ふ、ん、チュ……んんん、ちゅ。
ちゅ……ふう、んん、ちゅ、んちゅ。」

ダナ「こうして、キスをするのもなにひとつ問題がないことなんですね♪」

ダナ「ちゅ、ん、チュ……んんん、ちゅく、ちゅ……。
んんん、ちゅ……んふ、ちゅ……ちゅ……。
ふう、んん、ちゅ……ちゅ……ん……。」

◆正面近い

ダナ「まずは……一度、上体を起こしましょつか？」

◇ＳＥ：体を起こす

◆後方

ダナ 「はい。

そのままで居てくださいね？」

(ダナ、背後から抱きつく)

◇ＳＥ：身じろぎ

◆左極近

■演技：指定箇所以外、顔は横向き

ダナ 「私は後ろから……おちんちん、刺激しますね♥」

(主人公「そ、そんな」とするの?)

ダナ 「ふふ。意外ですか？

ココをシコシコするのも……スッキリしますよ～?」

■演技：主人公を見る

ダナ 「ズボン、少しだけおろしてください。

おちんちん、出して?」

◇ＳＥ：ズボンを少しおろす

(ズボンはお尻が出る程度脱ぐ)

ダナ 「ありがとうございます♪…あら?

おちんちん……もう元気じやないですか……♪

スッキリしなくちやいけませんね♥

ぜひ、私に任せてください♥」

ダナ 「こうして――、」

◇ S E .. 手コキ・低速

ダナ 「おちんちん……気持ちよくしますので♥
んう……ん……。

手でシコシコするだけが……スッキリじゃないんです……♪」

(耳舐め開始)

■演技：ここがら主人公の方を向く

ダナ 「れろれろれろ……んんん、ちゅ、ちゅ。

耳かきでスッキリしたお耳を……、

ちゅむ、ちゅ……今度は、ベロでスッキリさせます……♥」

ダナ 「ちゅ、んん、ちゅ、ちゅく、ちゅ……ちゅ。
んん、ちゅ、ちゅむ、ちゅ、んんん、ちゅく。」

ダナ 「ふう……んん、ちゅ。

ちゅ……ん、ちゅ……んん、ちゅく、ちゅ。

ダナ 「どっちが気持ちいいですか？ ふふふ。

ちやんと……おちんちんも幸せになつてほしいです……♥」

ダナ 「れろつ、んん、ちゅ、ちゅつ……ちゅ。

んむう、ちゅ、ちゅ……ふううう、んん、ちゅ。」

■演技：吐息

ダナ 「ふふふ。

立派なおちんちんですね。

ちゅむ、ちゅ、ちゅく、ちゅりゅ、チユツ。
んんんう、ん。

ダナ 「私、好きですよ？」

あなたのおちんちん……♥」

ダナ一れろれろれろれろれろ

んんむむむうう、ちゅ、ちゅうううう、ちゅ。
んんむう、ちゅ、ちゅふ、ちゅ。|

「そんなに興奮しちやつて大丈夫……？」

れ
れ
れ
れ
ま
た
…
沙
”
か
あ
る
ん
だ
よ
う
?

ダナ「ふふふ。

次……なんだろ？

ダナ「んむうう、ちゅ、ちゅくう、ちゅ。

想像しててください……

ダナ ちゅふう、ちゅ、んんん、ちゅ、ちゅく、ちゅ

んん、チユ……チユツ。」

「ん……ちゅつ、はああ、ん、んうう、ちゅ。

れろれろれろッ、んぶ、ちゅ……ちゅ、ちゅうう。ふふつ。
んうう、ちゅ、ちゅう。」

「おちんちんの速度、少しあげてみたいな……

このおちんちんが……シコシコ **♥** シコシコ **♥**
皮がめくれちゃうところ……見てたいんですけど…… **♥**」

「いいですか？」

んむ、ちゅ、ちゅくううう、ちゅ。ふふ、ありがとうございます♥では、」

◆S E .. 手ヨキ・中速

ダナ「お言葉に甘えて……
」

「はあ……ん、あゅ、あゅくうう、あゅ。」

ふふ、震えちゃつてる……

思つたより早かつたですね
♥
私のシコシコ♥」

ダナ 「れろれろれろっ、んん、ちゅく、ちゅつ、ちゅう。
はあ……んん、ちゅ、んん、ぶちゅむ、ちゅッ。」

ダナ 「ちゅむう、ちゅ、んん、ぶちゅむ、ちゅッ。
はあ……あんん、ん、チユツ、チユツ。反対も……、」

◆右極近

ダナ 「舐めたいな……♥」

(耳舐め開始)

ダナ 「れろれろれろれろ。

こつちも、ベロで綺麗にしちやう……♥」

ダナ 「ん。ふ。ふ。う。う。う。ちゅうう、ちゅく、ちゅ。

んん、ちゅツ、ちゅ、ちゅ……。

はあっ、はあっ……♥」

ダナ 「れろれろれろツ、んん、ちゅくツ。

んん、ちゅ、ちゅうう、おちんちん、ヌルヌルおつゆが出てきて……、
シコシコしづらくなつてきちゃいましたね……♥」

ダナ 「んんむうう、ちゅ、ちゅくう。

人間の倍以上生きるエルフのお手々は……包容力、強いですよね……♥」

ダナ 「ちゅううう、ちゅ、んんうう、ちゅ。

ちゅツ、チユツ、んんむむ、ちゅ、ちゅ。

あなたを感じさせ……幸せにすることだけを考えて、
このお手々から、愛を注いでる……♥」

ダナ 「んむう、ちゅ、ちゅくううう、ちゅ、ちゅむうう。

はあ……あむ、んん、ちゅ、ちゅううう、ちゅる、ちゅ。
んんうう、ちゅ、ちゅ。」

ダナ 「れろれろっ、んぶ、ちゅ、ちゅくうう、ちゅ。
はあ……はあ……んんん、ちゅ、チュツ。」

ダナ 「んん、んむ、ちゅ、ちゅ……つ。
はあ……あぶ、ん、ちゅ……。」

ダナ 「そう言いつつ……私の方も、ムズムズしてます……
長生きしても……おちんちんには逆らえません……。」

ダナ 「特に、あなたのおちんちんは色っぽいので……、
思わず、誘惑されちゃいます……。」

ダナ 「私の大事なところが……ズキズキ♥ 欲しがつちやうなあ……ふふふ♥」

ダナ 「んむ、ちゅ、ちゅる、ちゅ……。れろ、れろっ、んん、ちゅ、ちゅううう。
んんむ、ちゅ……ちゅる、ちゅ。」

れろれろっ、ぶちゅむう、ちゅ、ちゅ。はあ……はあ……んんん、ズズッ、ちゅ。」

ダナ 「大丈夫ですか……？ 落ち着きがないみたいですが……。」

(主人公 「イキそう……ツ」)

ダナ 「まあ？」

それでしたら……のままお手々でぴゅつぴゅします?
いいですよ……♥このまま出しても♥いいえ……出してほしいです♥」

◇S E .. 手コキ・高速

ダナ 「んうううう。」

んつ……はあ……はあ……つ。

射精してください♥

ダナ 「んん、ん……ふうんん、ん?。ん……ん……。
れろ、れろッ、ぶちゅむうう、ちゅ。」

んん、ずずツ、ちゅ……んぬうううツ。」

ダナ 「はあつ、はあつ。いま、イツでください
おちんちん……おつゆ出してつ●」

(手コキで射精)

◇S E : 射精

ダナ 「あ……つ●」

(手コキをゆっくり止める)

■演技：ペニスの方を見る

ダナ 「はあ……はあ……
すゞい……つ、たくさん……●」

(手コキ停止)

ダナ 「こんなに溜め込んでたら……、

さぞ疲れが溜まって辛かつたでしょうね……●」

ダナ 「んう……ドキドキしちやう……●んう、ん……つ。

ぴゅ……● ぴゅ……●はあ……はあ……。はあ～～……●」

■演技：ペニスの方を見るい」まで

ダナ 「出し切つてくれましたね。ありがとうございます……●

たくさん出していただけて、ホッとしました……●

おちんちん。私のお手々に懷いてくださいて、ありがとうございますね●」

ダナ 「それでは次……、始めましょつか？

なにをすると思いますか？

想像して……おちんちん、硬くしててくださいい●」

● トラック4 「次はおくちで癒やしますね」

● 背景.. 和室（日中）

（ トラック3の続き）

（背後から抱きついての手コキ＆耳舐めの後）

◆右極近

ダナ 「このヌレヌレのおちんちん。

もちろん、綺麗にしなくちやダメですよね？なので……、ズボンを脱いで、あちらのお布団の上に寝転がってください。続き、しましょ？」

◇SE..立ち上がる

◆後方下 → 後方近い

◇SE..立ち上がる（ダナ）

ダナ 「ズボン、脱いだらそのままで平氣ですよ？」

（主人公、ズボンを脱ぐ（ズボンはお尻の下までおりている））

◇SE..ズボンを脱ぐ音

◇SE..ズボンを脱ぐ際の足をつく音×2

ダナ 「では、お布団へ。」

◇SE..足音（畳）

◇SE..布団の上の足音数歩

（主人公、布団の上で寝転がる）

◇SE..座る音

◇SE..寝転がつて枕に頭を乗せる音

(ダナ、主人公の足下へ移動)

◇SE：足音（疊）

◇SE：布団の上の足音数歩

◆正面 → 正面下

◇SE：しゃがむ音

ダナ「では……。」

◆正面下

ダナ「舐めていきますね♥」

（舐めフェラ開始）

ダナ「れろ、んぶ、ちゅ……。

ふふふ……あなたのおつゆ、濃いですね。」

ダナ「れろれろ……んん、ちゅ、れろッ、れろ。んぶ、ん、ちゅ……れろ、れろ……。
見ていいですよ?」

ダナ「れろれろっ、んん、ちゅ、私が、おちんちん舐めてるといふ。

れろ、れろっ、んん、ちゅ、見てください……♥

客観的に見ても……おちんちんと女性の対照的な姿……、
エッチですよね……♥」

ダナ「れろ、んぶ、んん、ちゅ、ちゅ。

れろッ、れろ、んう、ちゅ、ちゅ、ちゅく、ちゅ。

れろ、れろ、んぶう、ちゅ、ちゅうう。

れろ……れろっ、んん、ちゅ、ちゅ……。」

ダナ「かさのあいだの汚れも、見逃しません。

れろれろれろ……んん、ちゅ、れろ、れろれろれろ。」

ダナ 「この段差が、色っぽいんです……♥

れろれろ……ちゅう、ちゅ、女性なので、
色々想像しちゃいます……♥」

ダナ 「これが、アソコに引っかかるところ、とか……
この先っぽが……触れる感触とか……♥」

ダナ 「ふふふ。

きわどいことばかり言つてごめんなさい。

ちゅむ、ちゅ、ちゅるる、ちゅ。

私も、発情してるみたいですね……♥」

ダナ 「れろれろれろ、んぷう、ちゅ、ちゅくうう。
ちゅ……んん、れろ、れろッ、んぶ、ちゅ。」

ダナ 「ちゅううう、んん、ちゅッ。
ちゅ……んん、ずずつ、ちゅ。」

ダナ 「れろ、れろ……んん、ちゅ、ちゅ、ちゅく、ちゅ。

れろ、んんん、ちゅむ、ちゅ……。」

ダナ 「発情が、抑えきれないみたいですね……♥

血管が浮き出て……エッチです……♥

癒し屋には似合わない、ストレスの溜まった姿です。

「こういうのをスッキリさせてあげるために……私はいるんです。」

ダナ 「なので次は——」

(咥えフェラ開始)

■演技：指定箇所以外は咥えた状態で

ダナ 「あむううううう、ずずツ、ぢゅ、ぢゅるツ、ぢゅ。

お口の中で、もう一度スッキリさせてください……♥」

ダナ 「ずずうううう、ちゅふ、ぢゅつ、ぢゅうう。

んぶぶうう、ぢゅる、ぢゅッ。

ンぶつ、ぢゅ、ぢゅる、ヂュッ。」

■演技：鼻呼吸

ダナ 「ふう……ふう……。」

ダナ 「んんううう、ぢゅる、ぢゅううッ。

ズズッ、ぢゅ、ぢゅ。

んむうう、ぢゅ、ぢゅう、ぢゅふ、ぢゅ……。」

■演技：一旦口から離す

ダナ 「どうですか？」

(咥えてないあいだで手でしゃべ)

◇SE：手コキ・中速

ダナ 「溜まつたストレスは、吐き出せそうですか？

イク時は遠慮しないで大丈夫ですからね。

私は……どいででも、おつゆを受け入れられますから……♥」

(手コキ停止)

(フェラ再開)

■演技：口から離すここまで

ダナ 「んむううう、ズズッ、ぢゅる、ぢゅつ。

ぢゅく、ぢゅつ、ぢゅるるるッ、ぢゅびゅ。

透明なおつゆの味がする……♥」

ダナ 「ヂュヂュヂュ、んぶぶうう、ぢゅる、ぢゅる、ぢゅううッ。

んんん、ぢゅふ、ぢゅ、ずずッ、ぢゅ。」

ダナ 「はあ……んうう、ぢゅる、ぢゅッ。

ずずううう、ヂュッ、ヂュッ、ぢゅふ、ぢゅつ。」

(ダナ、感じてる顔を見て思わず微笑む)

ダナ 「ふふっ……♥」

ダナ 「ぢゅ。ぢゅうう、ぢゅツ、んんん、ズズツ。
ぢゅくツ、ぢゅううう、ぢゅつ。」

■演技：鼻呼吸

ダナ 「ふう……つ。」

ダナ 「んんん、ぢゅ、ぢゅるツ、ぢゅつ。
ズズツ、ぢゅく、ぢゅ、ぢゅる、ぢゅツ。
んんんううう、ぢゅツ、ぢゅツ。」

ダナ 「あむううう、んん、ぢゅ、ヂュツ。
ヂュツ、んん、ぢゅる、ぢゅつ……ずずううツ。」

(主人公「イキそう」)

ダナ 「イク？ いいですよ……♥
お口の中で♥」

ダナ 「ぢゅるるるつ、ぢゅ。ん、ぢゅつ、ぢゅツ！
ヂュツ！ デュツ！
ぢゅううう、ぢゅりゅ、ぢゅつ、ぢゅうううツ！」

ダナ 「んんんううう……つ。

ぢゅうう、ヂュツ、ぢゅく、ぢゅううツ。
んんん、ズズツ、ぢゅ、ぢゅううツ。」

ダナ 「はあ……んんううう、ぢゅる、ぢゅツ。
出してください♥ずずツ！ 矢ゆる~~~~~ツ！」

(口内射精)

◇ S E : 射精

ダナ 「んふ……ひ。
んつ……！
んつ……んひ……！」

(咥えたまま。ニスをしゃいて全部出させる)

◇ S E : 手コキ・高速

ダナ 「全部、ですよ？」

んんんう……んふ♪
ン……ツ。」

■演技：鼻呼吸

ダナ 「ふう……ふう……ひ。」

ダナ 「んんう……ひ。
んふ……んう……。」

(手コキ停止)

ダナ 「全部、ですか？では——」

(。ニスから口を離す)

■演技：ペニスから口は離しても精液は溜めた状態

ダナ 「ん……ん……。」

■演技：口を開けて溜まったものを見せてる

ダナ 「見へくらはい……
あー……♥このしえーえきを～……♥」

■演技：びくくん

ダナ 「びく……びく、ん、んう……。」

■演技：呑えたままここまで

ダナ 「ふはあああ……♥」

すべて平らげてしました……♥」

ダナ 「どうですか？」

かなりスッキリしたと思います。」

ダナ 「ですが、まだまだおちんちんは望んでるみたいですよ？
もっとスッキリしてから……おやすみしましょう♥」

(主人公「つ、次は……」)

ダナ 「ふふふ。ナニするかわかつてるんでしょ？」

ダナ 「次は……、

おまんこで……癒します♥」

● トラック5 「最後は愛を込めて…私のナカへ」

● 背景..和室（日中）

（トラック4の続き）
（フェラをした事後）

◆正面下

ダナ「では、さうそく……。」

◇SE..立ち上がる

◆正面

ダナ「ふふふ……♪」

（ダナ、パンツだけ脱衣）

◇SE..浴衣の衣擦れ（パンツを脱ぐためにかき分ける動作）

◇SE..パンツを脱ぐ

◇SE..パンツを脱ぐ際に足を布団につける音×2

ダナ「癒すどころか、疲れさせてしまうかもしません。
ですが、お手々とお口をされた後では……、

当然、オトナの快感も欲しいのが男性ですよね……♥」

（ダナ、脱衣後に主人公に跨がつて騎乗位の体勢）

◇SE..布団の上に足音数歩

◆正面近い

ダナ「この上向きのおちんちん……、

私の動きで、ご奉仕します……♥」

(ダナ、ペニスを挿む)

ダナ 「わあ……カチカチ……
んう……ん……。」

うん。大丈夫そうですね……よし♥入れますよ?」

◇S E : 握入 (単音)

ダナ 「んつ……♥気持ちいいですか……?
いっぱい……ハアハア感じてくださいね……
んんうう、つ……ん……ツ。
一気に、いきます……♥」

◇S E : 握入 (一気に)

ダナ 「はああああああ……♥」

(根元までペニス挿入)

ダナ 「んくうう……つ。
アツ……んう……あつ、はあ、はあ……つ。
気持ちいいですね……
幸せがじわじわと広がってきます……
」

(ダナ、上体を倒して密着)

◇S E : 上体を倒す

◆左極近

■演技：指定箇所以外は囁きでお願いします

ダナ 「んう……」の幸せ、もっと広げましょう……
いきますね……
」

◇S E : ピストン・低速

ダナ 「んくツ、ん、あつ。

はあ……んん、んくツ、んん、うん。
ん……はあ……んん、んく、んつ。」

ダナ 「んう、んん、あつ、気持ちいい……♥
ふううう、んん、んくツ、ん、ん……つ。

んん、んくつ……んつ、んんう……♥」

ダナ 「あん、んつ……んんつ。

おちんちん以外も……幸せにします♥」

(耳舐めを開始)

ダナ 「れろれろツ、んんん、ちゅく、ちゅ。

んん、ちゅぷちゅ、んんん、ちゅ。

ん……れろれろ、んぶ、んん、ちゅ……ちゅうううう、ちゅ。」

ダナ 「はあ……んん、ちゅ、ちゅく、ちゅる。

あ、んん、おちんちんが、びくびくしてますね♥」

ダナ 「んん、ちゅ、んん、ちゅつ、ちゅ。はあつ、ん、んくツ、んつ。

ちゅ……はあつ、あつ、ん……ツ♥遠慮しないで、感じちゃってくださいね?」

ダナ 「んふふうう、チユツ、ちゅる、ツ、ちゅ。あつ、んん、んくツ、ん……。
どれだけ昂ぶつても……、私のど」に興奮しても……あなたの自由です♥」

ダナ 「ちゅむううう、チユツ、ちゅく、ちゅ。んん、ちゅる、チユツ、チユツ、んん、ちゅ。
はつ、んん、あん、ん……ツ。れろ、んんう、ん……あ、あ……ツ。
ちゅるるる、ちゅ、んん、ちゅツ。あつ、ああ……ツ。」

◆右極近

ダナ 「こつち……。

んん、ん、はあつ……あ、あん、ん……ツ。」

(耳舐め開始)

ダナ 「れろ、れろツ、んん、ちゅく、ちゅ。
れろれろ、んんん、ちゅく、ちゅううううツ。」

ダナ 「あん、んつ、ん……ちゅ、ん、ちゅ、ちゅ。
はあ……はあ、ん、んく、んんうう、ちゅ。
れろ、れろツ、んん、ちゅ、ちゅむう、ちゅ。」

ダナ 「んん、んつ、ちゅ……ちゅむう、ちゅ、ズズツ。
大丈夫、かな……？ 私の方が、気持ちよくなつてるかも……。」

ダナ 「んん、ちゅく、ちゅ……んん、ちゅ。ちゅる、ちゅ、んん、ちゅ、ん、ちゅ。」

ダナ 「あん、んう、んツ……んん、んつ。
ちゅ、ちゅる、チユ……んん、ちゅ。
れろ、れろ……ツ、んん、チユツ。」

ダナ 「あんつ、んつ、ちゅ。
あの……ふふふ。

私、お先に癒されちゃいそです……つ。だから……ツ。」

◇SE..ピストン・中速

ダナ 「まずは……つ、自尊心を癒すと……ことで♥んん、はあつ、あつ、んつ。
長寿のエルフをイカせた、逞しいおちんちん……つ♥」

ダナ 「長生きすればするほどつ、ん、ンツ、快感も、感覚も遠くなつていくの……♥
でもつ、んん、ん、あなたのおちんちんは立派で、
はあつ……あ、ああ……ツ、エルフもすぐにイッてしまつほど、魅力的です……つ♥」

ダナ 「イキますね？ あなたのおちんちんが、イカせるんですよ♥」

ダナ 「んあああああつ♥あああつ、イクつ
ンつ、んううううううううつ♥」

(ダナのみ絶頂)

(ピストン停止)

ダナ「あ……ッ！はあ……んくッ、んつ、あ……ッ♥
んんんツ、んんく、ん……んツ、あ、ああ……つ♥イツてしました……♥」

ダナ「すごい方……♥エルフをイカせるなんて……♥」

ダナ「ん……ん……♥
次は……動きますか？」

体、起こしてください……♥」

◇S E・上体を起こす

◆正面近い

ダナ「寝かせて？」

◇S E・身じろぎ

(ダナを抱えたまま騎乗位→対面座位→正常位の体勢で移動)

(ダナを正常位の形で寝かす)
(ペニスは繋がったまま)

ダナ「ん……つ。このまま……♪自由に使ってください♥
あなたが射精するまで♥」

◇S E・ピストン・中速

ダナ「んあっ……♥

アツ、はあっ、ん、んつ……うん。さすが、ですね♥
腰の動き方が色っぽくて……、つい、意識してしまいます……♥」

ダナ「んんう、あっ、んん、はあっ、はあっ、ん、んぐ。
んう……ああああ、んん、んく、ん……ツ♥」

◆右極近

ダナ「んはあ……つ。

はつ、ああつ、ん、んく……
んくうう、ん、んうう、ん……ツ。」

ダナ「うんんん、ツ、んん、アツ、んう
はあ……はあ……どうですか？」

ダナ「一度イツてしまつたおまんこ……、

狭さもぬかるみも……格別だと思うのですが……」

ダナ「はあつ、ん、あ、ああ……つ
んくツ、んん、あん、んう、んうう……」

ダナ「ふううう、ん、んく……
はあ……はあ……あ、ああ……ツ

もうすでにわかつてると思いますが……、私は、気持ちいいですよ……」

ダナ「んくツ、んんん、んつ……

んあツ、あ、あああ……んんツ、んう

ダナ「おまんこだけじやありません……
心から頭のてっぺんまで、はあつ、んん、

たくさん、気持ちいいが広がつてます」

ダナ「ん、んくツ、んつ♥んんツ、んんんつ、んツ、あんつ。
はあつ、あん、んくツ……んん……つ。」

ダナ「欲しがりな気持ちがつ、はあつ、ん、

自分で、足を拡げて、おまんこ突きやすくしちゃうんです……」

ダナ「んん、はしたないって思いますか？ これって、下品ですか？

でもつ、ふたりで気持ちいいなら、なにも問題ありません
お互いがそう思わなければ、下品じやないんです♥」

ダナ 「んんくつ……んん、はあつ、ん、んあつ。

ああつ、ですが、こんなに気持ちいいを届けられたら、
またしても、私だけが、イッてしまします……♥」

ダナ 「なので、どうか……つ。んんうう、ん、もつと、強く突いてください……つ
全体力を消耗して、残りのストレス、不溡を、
私のナカへぶつけてください……つ！」

(主人公 「で、でもそれじゃあ……！」)

ダナ 「はい……つ。当然、そのまま出していただきます……つ♥
中出し……好きですよね？」

ダナ 「あなたのおつゆ、ください♥」

んんん、んつ、最後の最後まで、癒したいのでつ♥どうぞ、そのまま♥」

◇SE・ピストン・高速

ダナ 「ンう～～ツ！アツ♥ あああツ、んくツ♥ あ、あああツ♥
はあつ、はんん、んく、んううツ♥」

ダナ 「はあつ、はあツ♥あんんん、んくツ、んつ♥あん、んつ、スッキリしてください♥
私のナカへツ、はあつ、あつ、アアツ♥」

ダナ 「どうぞ、いらしくださいツ♥んうううううツ、ああつ、イクツ♥一緒に、どうぞ♥」
はあつ、はあツ、あああつ、い、イクツ♥

イキましょうツ♥おつゆ出してくださいツ♥イクツ、んんう～～～～～～ツ♥」

(ピストン停止)

(同時絶頂（中出し）)

◇SE・射精

ダナ 「あんうううううう……ツ！へぎゅツ！ うツ……あ、あああ……つ！」

はあツ……はあああ……つ！
んぎゅツ……う、うううう……ツ。」

ダナ 「奥へ…………♥あ、あああ…………♥」

でも、まだ……出せます……つ♥腰……動かしてみて？」

◇SE：強めのピストン一発

ダナ 「ンンン…………つ！はああ…………はああ…………つ。もう一度…………♥」

◇SE：強めのピストン一発

ダナ 「ああああ…………ツ！ああああツ、う、うううう…………♥」

中出しつて…………気持ちいい、ですね…………♥」「

ダナ 「はああ…………はああ…………ツ♥」

んんんんうう…………んく、んつ…………ふはあああ…………あ、あああ…………。」

◆正面近い

ダナ 「いかがでしたか…………？」

私のナカで…………最後まで気持ちよくなつていただけてなによりです…………♥」

ダナ 「でも、中出しを憂う必要はありません♥最初に言いましたよ？」

私たち…………いまだけは恋人です。子宮に子種を出しても、なにも問題ないんです。
それよりも…………。」

◆左極近

ダナ 「あなたが癒されたかどうかの方が大事…………♥」

どうでしたか？おちんちは、スッキリしましたか？」

(主人公「ほんとに、大満足」)

ダナ 「ふふ。よかつた…………♥」

今日は、このまま寝てしまいましょうか…………♥」

● トラック6 「おやすみなさい」

● 背景..和室（日中）

（トラック5の続き）

（ベニスの繋がりの有無は濁すものの事後）

◆左極近

ダナ「はあ……♥ 気持ちよかったですね……♥

このまま、ゆっくりと休みましょう……♥」

◇SE..指を鳴らす

◇SE..風で木々が揺れる音（たまに挟んでください）

ダナ「興奮は消え、ストレスもなくなったと思します。

あとは静かな自然に包まれて……、

ゆっくりと目を瞑つておやすみなさい……♥」

◆右極近

ダナ「目を閉じて？…………そのまま、なにも意識しないでゆっくりと、
あるがままを受け入れて…………そうです……♥」

■演技..寝息を立てる

ダナ「すう…………すう…………。私も……」のまま、眠ります……。」

ダナ「すう…………ふう…………。
すう…………ふう…………。」

ダナ「今日は、寝てしまいましょう……♥ おやすみなさい……
またいつか、ここを尋ねた時には、
もう一度……私の恋人となつて……、
癒しの施術を受けてくださいね……
♥」

ダナ 「では……夢の世界へ。

いってらっしゃいませ……」

ダナ 「すう…………ふう…………。」

すう…………ふう…………。」

すう…………ふう…………。」

んう…………ん…………。」

ダナ 「すう…………ふう…………。」

すう…………ん…………。」

すう…………ん…………。」

すう…………ん…………。」

■演技・力なく

ダナ 「すう…………。」

すう…………。」

すう…………。」